

## 4日 火曜

### 出エジプト



12:37 イスラエル人はラメセスから、スコテに向かって旅立った。幼子を除いて、徒歩の壮年の男子は約六十万人。

12:38 さらに、多くの入り混じって来た外国人と、羊や牛などの非常に多くの家畜も、彼らとともに上った。

12:39 彼らはエジプトから携えて来た練り粉を焼いて、パン種の入れてないパン菓子を作った。それには、パン種がはいっていなかった。というのは、彼らは、エジプトを追い出され、ぐずぐずしてはおられず、また食料の準備もできなかったからである。

12:40 イスラエル人がエジプトに滞在していた期間は四百三十年であった。

12:41 四百三十年が終わったとき、ちょうどその日に、主の全集団はエジプトの国を出た。

12:42 この夜、主は彼らをエジプトの国から連れ出すために、寝ずの番をされた。この夜こそ、イスラエル人はすべて、代々にわたり、主のために寝ずの番をするのである。

12:43 主はモーセとアロンに仰せられた。「過越のいけにえに関するおきては次のとおりである。外国人はだれもこれを食べてはならない。

12:44 しかし、だれでも金で買われた奴隷は、あなたが割礼を施せば、これを食べることができる。

12:45 居留者と雇い人は、これを食べてはならない。

12:46 これは一つの家の中で食べなければならない。あなたはその肉を家の外に持ち出してはならない。またその骨を折ってはならない。

12:47 イスラエルの全会衆はこれを行なわなければならない。

12:48 もし、あなたのところに異国人が在留していて、主に過越のいけにえをささげようとするなら、彼の家の子はみな割礼を受けなければならない。そうしてから、その者は、近づいてささげることができる。彼はこの国に生まれた者と同じになる。しかし無割礼の者は、だれもそれを食べてはならない。

12:49 このおしえは、この国に生まれた者にも、あなたがたの中にいる在留異国人にも同じである。」

12:50 イスラエル人はみな、そのように行なった。主がモーセとアロンに命じられたとおりに行なった。

12:51 ちょうどその日に、主はイスラエル人を、集団ごとに、エジプトの国から連れ出された。

壮年男子だけで60万人とは非常に多くの民だったことが分かります。その後の荒野での出来事の現実を理解することができるでしょう。それほどの人々を荒野で養われた主の恵みと力を覚えましょう。しかも「ぐずぐずしてはおられず」というほどの緊急の中で救いは行われました。

私たち自身の救いも、その時しかないというように緊急な神の時であり、また主の恵みと力のわざであったことを、もう一度思い起こして感謝しましょう。そしていよいよ神様に信頼しましょう。

過ぎ越しのいけにえは単に行事ではなく、信仰の表れです。ですから「居留者」「雇い人」であるからといって食べるものではありません。割礼を受けて、神の民となつてからのものです。すなわち新約で言うなら、十字架を受け入れて新生した者が、聖餐に気づかり、また教会の一員になるというようなことです。

何よりも信仰の表明を大切に、そこをないがしろにしないようにしましょう。常に自分自身はその信仰を持っているのだと自覚しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

